

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2440 号

Stability of Intrinsic Rhythm in Pacemaker-Dependent Patients During Pacemaker Replacement: Can We Predict the Need for Temporary Pacing?

(ペースメーカー交換時における自己調律の安定性は術前に予測可能か?)

木村 友紀 (きむら ゆき)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、ペースメーカー外来で自己調律を評価することは、交換手術時の自己調律の安定性を予測し、一時的ペーシングの必要性を検討する上で有用であることを始めて明らかにした臨床的に意義のある論文である。

ペースメーカー交換前の外来で安定した自己調律を認めた場合は、ペースメーカー交換手術中に一時的ペーシングはほぼ不要であり、安定した自己調律が出現することが予測できるもっとも重要な因子であることが明らかになった (89% vs 24%, $p < 0.0001$)。一時的ペーシングは洞不全症候群に比べ、房室ブロック患者でより多く必要であったが (84% vs 48%, $P = 0.0044$)、recursive partitioning analysis の結果は、洞不全症候群または房室ブロックの群よりもペースメーカー交換手術前の外来での安定した自己調律の存在がより有用な予測因子であることを示した。直前のペースメーカー外来において自己調律が認められない場合、一時的ペーシングを必要とする感度、特異度、陽性的中率、陰性的中率はそれぞれ、89%、77%、46%、97%であった。

本論文の結果は、ペースメーカー交換前に医師や医療スタッフに有用な情報を提供することができ、ペースメーカー交換術前に一時的ペーシングシステムの準備や、追加の手技や危険性を患者に説明することが可能になる。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。